

2024年4月10日

自己点検・評価報告書

日本語教育機関名 : 愛心国際学院
実施担当者 : 学院長（学校長）・高橋秀作
教務主任・渡邊のり子

愛心国際学院は、日本語教育機関告示基準第1条第1項第18号に従い、教育の水準の向上を図り、日本語教育機関の目的を達成する為、年1回の自己点検・評価を行っています。尚、自己点検・評価を行う項目は「日本語教育機関の告示基準解釈指針」をもとにしております。

各項目の評価方法は5段階評価としています。

- 5 : 達成している
- 4 : ほぼ達成している
- 3 : 改善すべき点が多いが、取り組んでいる
- 2 : 取り組みを検討中
- 1 : 改善が必要

1	教育の理念・目標	評価
1-1	理念、目的・教育目標や育成する人材像が明確となっているか	5
1-2	理念、目的・教育目標や育成する人材像が社会のニーズに合致したものとなっているか	5
1-3	学校の特色を出すことができているか	4

理念・目的

愛心国際学院は、お互いの人格を尊重し、人間性豊かな「真心」の精神を理念として国際交流により相互理解を深め、世界に貢献することを目的としております。

教育目標

- ・学習者一人ひとりの目標達成のために必要な日本語能力を見極めて指導します。
- ・日本語学習を通じて、日本人の視点や考え方などを知り、日本文化や現代社会に対して理解を深めます。

育成する人物像

- ・個々の民族、習慣、宗教を理解した上で異なる文化を尊重し、相互に協調して生きることが出来ます。
- ・国際人としての視野を広め、将来の目標に向かって自信をもって自己実現を行います。
- ・将来、日本での生活（就職）を希望している学生には、特に日本の生活習慣（規則の厳守、協調性等）についても指導しています。

【現状と課題】

愛心国際学院は、政府認可の特定非営利活動法人(NPO)愛心国際社会交流協会が設立し、その目的である「国際交流により相互理解を深め、世界平和に貢献する」ため、日々努力しています。国際社会において、個々の民族・習慣・宗教を理解し、異なる文化を尊重し、人類が相互に協調して生きることが社会のニーズに合致しております。

愛心国際学院の特色は授業が能力別、かつ、少人数制で行われていることです。1クラスの定員を10名前後に絞ることにより、学習者一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな対応ができ、少人数制クラスは学習効果が高く、教員側、学習者側からも喜ばれています。進学指導に関しても担任教員が提出書類の確認、試験の対策、面接練習等に時間をかけることができ、進学先の担当者からも評価が高く、学生達からも感謝されることが多いです。これらは少人数制だからこそできることでもあり、今後も大切にしていきたいと考えております。

これらの理念・目標はホームページ、パンフレットに記載されていますが、学生への周知は十分徹底されていないのが現状であり、今後は周知にも力を入れたいと考えています。

2	機関運営	評価
2-1	理念や目的に沿った運営方針や事業計画が策定されているか	5
2-2	組織運営や、人事、財政管理に関する規定が整備されているか	4
2-3	意志決定システム、コンプライアンス体制が整備されているか	5

【現状と課題】

意思決定は全体会議（専任教職員）において行われ、情報共有を行っております。専任教員のみで行う会議、年3回の教員全体会議（専任と非常勤）、クラス別会議があります。コロナウイルス感染症の影響も少なくなり、今年度より、これまで以上に充実した会議を行い、情報共有したいと考えています。組織運営に関しては職務分掌にあいまいなところがあった為、令和4年2月より実施している偶数月の最後の土曜日に理事会（理事長、理事、学院長、教務主任）を実施して意思疎通を徹底します。

3	教育活動	評価
3-1	教育理念に沿った教育課程が体系的に編成されているか	5
3-2	学生が到達すべき日本語能力の目標が明示されているか	5
3-3	成績評価や進級、修了の判断基準は明確となっているか	5
3-4	成績評価や進級、修了の判断基準は適切に運用されているか	5
3-5	教員の指導力向上のための取り組みが行われているか	4
3-6	教育課程の改善のための取り組みが行われているか	5

【現状と課題】

新入生はプレースメントテスト（筆記試験と面接）により、クラスを分けています。その後は授業中のテスト、定期テスト、担当全教員からの評価、個別面談、出席率により成績評価、進級、修了を決定しています。

教育理念である国際交流による相互理解、また、日本文化や現代社会等に対して理解を深めるための日本文化体験（浴衣、七夕、書道等）を行ってきました。

各クラスにおいての目標を明示した上で、それぞれの学生の目標（JLPT、EJU等の受験）に合わせて指導しております。

新任教員には教案提出や授業見学により指導を行っており、その期間は長ければ1年以上になります。しかしながら、経験の長い非常勤教員への指導力向上への取り組みは十分とは言えず、経験の長さに関わらず、授業見学、年間を通して定期的勉強会を実施して、各教員のレベルアップ目指しています。この勉強会では各自の意見、考えなどの発表は当然で、学生からの意見要望も参考にして、より良いクラス授業を目指しています。

4	学修成果	評価
4-1	学生の日本語能力の向上が図られているか	5
4-2	学生の日本語能力が機関が定める到達目標に達しているか	4
4-3	学生の進路を適切に把握しているか	5

【現状と課題】

カリキュラムに沿って授業を進めていますが、希望者にはプラスアルファの課題を渡したり、授業に遅れ気味の学生には復習課題を渡したりと個別に能力を伸ばす努力をしています。

学生の日本語能力はほとんどの学生が到達目標に達しています。これまで以上に今年から積極的に進学説明会等に参加させ、早く行動を開始したいと考えております。進学希望者全員が各自の希望校へ進学することができるよう努力いたします。

学生の進路は合格通知、入学許可書、学生からの報告をもとにまとめられています。

5	学生支援	評価
5-1	学生に対する学習相談や進路に対する支援体制が整備されているか	5
5-2	健康管理体制が整備されているか	5
5-3	生活指導の支援体制が整備されているか	5
5-4	防災や緊急時における体制が整備されているか	4

【現状と課題】

3か月に1度の個人面談時以外にも常時学生が学習相談、進路相談ができる体制が整っています。特に専門学校への願書提出の準備をする8月からは個別に時間を設けて支援を行っていますが、今年度は6月から開始します。また、見学希望の多い学校へは専任教員が引率を行っています。

愛心国際学院は愛心会グループの保土ヶ谷クリニックと契約をしており、年 1 回の健康診断のみならず、診療が安心して受けられ、また本学院の専任教員に看護師資格を有するものも在籍しています。日本語能力の低い学生、または必要があると判断した場合には教職員が病院へ引率し、学生の健康状態の把握に努めています。学生は全員国民健康保険に加入しております。コロナ感染症がほとんど終息しておりますが、学生には毎日登下校時、手のアルコール消毒、可能な限りマスクの着用、校内の食事禁止を徹底しております。教室内は換気、消毒をしています。今年度はコロナ前と同様に在校生の滞在先を訪問して、通学路や滞在先周辺の安全確認や生活に心配な要素はないかを確認しています。また、希望者は本学院所有の学生寮に入ることができます。アルバイト先についても詳しい聞き取り、指導を徹底し、オーバーワークを未然に防ぐ努力を続けてまいります。

年に 1 度の防災訓練では、本学院作成の防災資料を使用し、備蓄品、非常持ち出し品の紹介と使い方の指導、身の守り方、DVD 視聴、横浜市中区役所の指導のもと、避難訓練による避難場所確認を行っています。また、クラス単位で横浜防災訓練センターを訪問し、震災等の意識を深めてまいります。

6	教育環境	評価
6-1	施設・設備が十分かつ安全に整備されているか	4
6-2	教材は適切か	5
6-3	学修効率を図るための環境整備がなされているか	5

【現状と課題】

少人数制で 1 クラス 10 名前後に絞っており、語学習得の教育環境としては望ましいと思います。教材は各レベルで決められた主教材に加え、そのクラスの実情に合わせた副教材を担当が決めております。また、使用教材の再考、新しく出版された教材の検討も常に行っております。

近年の学習環境の変化に伴い、各教室で Wi-Fi 環境も整え、各教室にプロジェクターを設置するよう努力しており、現在プロジェクターを 5 台購入しており、今年夏までに各教室に設置します。

7	入学者の募集	評価
7-1	入学者の募集は適切に行われているか	5
7-2	教育機関の情報は正確に伝えられているか	5
7-3	授業料等は適切か	5

【現状と課題】

入学者の募集についてはホームページとパンフレットに最新情報を正確に伝えています。また、海外の送り出し機関とは業務委託契約を結び、業務委託内容を明確にし、メール等で連絡を取り合っています。入学者の選考については書類審査と面接を行っています。募集担当者が現地に向かい、入学希望者のみではなく保護者とも面接をすることにより、お互いの情報を正確に共有するとともに厳密な審査ができていましたが、新型コロナウイルスの影響で一昨年から Skype と Zoom を使った面接となりましたが、新型コロナウイルス終息傾向になりつつあるため、これからは現地での募集面接を考えております。令和6年4月期生（モンゴル）の面接は事務職員が現地に行き、親とも面談をしました。

8	財務	評価
8-1	中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8-2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
8-3	財務について会計監査は適切に行われているか	4
8-4	財務情報の公開の体制はできているか	2

【現状と課題】

NPO 法人愛心国際交流協会と財務的な連携をとることにより、中長期的に財務基盤は安定しています。コロナウイルス感染症による影響もほとんどなくなりました。財務情報の公開は現在も検討中です。

9	法令順守	評価
9-1	出入国管理及び難民認定法及び各種関係法令等の順守と適切な運営がなされているか	4
9-2	個人情報の保護への取り組みがなされているか	4
9-3	自己点検の実施と改善及びその公開を適切に行っているか	5

【現状と課題】

出入国管理及び難民法認定及び各種関係法令等を遵守するようオリエンテーションの際に厳しく指導を行っており、在学中も学生の情報を収集し指導を徹底しています。

個人情報の取り扱いについては、教員は採用時の就業規則で、学生はオリエンテーションで説明をしています。写真等の掲載については書面にて許可を得た学生のみ公開しており、書類、PCの個人情報は漏洩がないようセキュリティを強化する必要があると認識しています。

自己点検は年に1回実施しており、令和3年度よりホームページ上で公開を始めました。

10	地域貢献	評価
10-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献をおこなっているか	3

【現状と課題】

これまでは介護施設を訪問して、各国の歌やダンス、演奏を披露し、入居者の方々との交流を行いました。コロナウイルスの影響で中止しておりました。コロナウイルス終息後、野毛地区の季節行事に参加し、地域の方々との交流を行いたいと思います。これからも留学生をメインに日本語教育を行いますが、今後は地域の外国につながる子どもたちとその家族、介護・看護従事者等への日本語教育を通じての社会貢献もできるよう努めたいと考えております。また、社会貢献の一つとして、JR 桜木町駅及び野毛地区自治会にも相談して学校周辺の清掃活動を行う予定です。在校生が小さな行動でも社会貢献をしている自覚を持ってもらうことが大切だと考えております。